



2025 夏の「もずく基金」 産地見学・生産者交流会 報告

組合員活動 G
藤縄亮子

もずくとサンゴ、「Honey&Coral フロジェクト」について知り、体験しました

恩納村ともずく養殖

恩納村は、沖縄本島の中央部西海岸に位置しており、もずく・海ぶどう・アーサの養殖が盛んです。もずく全国シェアの 99%が沖縄県産ですが、そのうち糸もずくは、恩納村が大きなシェアを占めているそうです。

ポンプを使って収穫・選別されたもずくは、鮮度を落とさないように素早く処理され、船で境港へ届けられます。もずくの養殖はとても重労働で、若手も多く携わっておられます。



恩納村漁協 仲村さん



白化したサンゴ

サンゴがピンチ

豊かな海の環境を守るために、なくてはならないサンゴ。海水温の上昇が長く続くと、サンゴは「白化」して死んでしまいます。1998 年、2001 年に続き、昨年大規模な白化が起こり、8割くらいのサンゴが死滅してしまいました…。

また、作物を収穫した後の畑などから「赤土」が、雨によって海に流れ込み、サンゴやもずくにとっては悪影響となっています。



子どもはシュノーケリング、
大人グラスボートに乗って、
実際に海の中を見ました。





サンゴ保全活動

サンゴの大規模白化をきっかけに、2010年から、サンゴ礁再生事業「もずく基金」の取り組みが始まりました！恩納村の豊かな海を守るために、恩納村、恩納村漁業協同組合、(株)井ゲタ竹内、コープCS ネット（中国・四国6生協）が、共同の輪で取り組んでいます。



味付け太もずく



味付け糸もずく

「もずく基金」対象商品を1点利用することにより、1～2円が基金に積み立てられ、サンゴ礁再生事業に役立てられます 🐠

恩納村は、2018年に「サンゴの村宣言」を行い、2019年には「自治体SDGsモデル事業」に認定されました。漁協の皆さんは海の中で、サンゴの天敵となるオニヒトデの駆除や、生き残った元気なサンゴから新たなサンゴを育成するために、奮闘されていました。「赤土流出防止対策」としては、収穫後の畑に植物を植える取り組みが行われています。ベチバーという植物を植えてしめ縄やバッグなどに商品化したり、植物を植えてさらに養蜂を行う「Honey&Coral プロジェクト」が行われています。



恩納村役場
桐野さん

サンゴを植える取り組み

基台にメッセージや絵を描いて、元気なサンゴの苗をくくりつける体験を行いました。



植樹・養蜂の取り組み



蜜源となるシャリンバイの植樹体験を行いました。その後、養蜂の様子を視察し、はちみつを試食しました。





恩納村の方々・参加親子・職員で親睦を深めました

夕食を食べながら、参加者同士、恩納村の方々と交流しました。漁協の方々には、参加者から沢山質問があり、海の仕事について生き生きと話しておられました。初日は、三線の演奏があり、最後はみんなで沖縄伝統のカチャーシーを踊って楽しみました。



海ぶどう養殖場を視察しました



コープおろく店を視察しました



ひめゆり平和記念資料館を見学し、平和に思いを馳せました

1945 年4月1日に始まった沖縄戦。陸軍病院などの看護要員として戦場へ送られた少女たちの「ひめゆり学徒隊」も多く犠牲になりました。「ひめゆり平和記念資料館」は、1989 年6月23日、沖縄戦の体験と平和の尊さを伝えるため、ひめゆり同窓会によって設立されました。

楽しい学校生活が突然奪われ、過酷な環境で兵士の世話や負傷者の治療や手術に当たった少女たち。最後は戦場をさまよい、友人の死も目の当たりにするなど、当時の悲惨な状況を改めて知り、平和について思いを馳せる機会となりました。





～参加親子の感想～



【子ども】

- もずくをもっと食べたいと思いました。シュノーケリングで魚やサンゴを見れてよかったです。友達もできて楽しかったです。もずくどの種類もおいしかったです。はちがたくさんいたのにふつうにすばこを持っていたすごいなと思いました。

- 美味しいもずくを生産して商品にするために、サンゴを育てたり、赤土が流出しないために取り組みをされていることを、自分の五感を使って感じることでよかったです。これから恩納村産のもずくを食べる時に、たくさんの人の顔を思い浮かべながら大切にいただこうと思いました。それに、また恩納村のことが気になったら遊びに行こうと思いました。また、こんなにも全国のコープさんが連携しておられることを知って驚いたし、私も他の県の生協組合員さんやその子どもさんなど、たくさんの人と交流できたり、仲良くなれて楽しかったです。

【大人】

- 恩納村の取組、とても面白いなと思いました。サンゴの村として、地域の方々に活気があり、皆で何とかしようと前向きに取り組んでおられると感じました。生産者さんの生の声を聞きながら実際に見学し、交流し、貴重な経験をすることができました。沖縄の人の良さを感じることができたのは交流があったからこそです。いつも何気なく食べていたもずくが、一段と美味しいものになりました。親子で参加することの意義を感じました。

- 今まで、もずくについてもサンゴについても全く興味を持ったことがありませんでしたが、生産者の方のお話を聞いたり死滅したサンゴを自分で見たり、サンゴの移植したことで、もずくとサンゴについて知ることができ、沖縄の海とサンゴを私も守りたいと思いました、そしてもっと多くの方に知ってもらって沖縄の海とサンゴを守る活動がもっと広がればいいと思いました。

農地から出る赤土が海の汚染に関係するなんて考えたことがなかったのでとても驚きました。Honey & Coal プロジェクトは、農家の方にもメリットがあって持続可能なプロジェクトで素晴らしいです。現地を見学して生産者の方と交流できたことが一番心に残りました。また、バスの中で沖縄について色々教えていただいて、より沖縄を知ることができました。

